

平成15年 6月24日

報道機関 各位

広島大学総務部大学情報室長  
西田 良一

## 「原爆・被ばく関連資料データベース」作成決定

広島大学原爆放射線医科学研究所では、長年にかけて収集してきた原爆・被ばくに関する学術資料をもとにデータベースを作成することになりましたので、お知らせいたします。 → [詳細](#)

なお、これは平成15年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)により実施されます。

## 【お問い合わせ先】

広島大学原爆放射線医科学研究所  
助手 川野 徳幸  
TEL: (082)257-5878  
(ダイヤルイン)

[発信枚数:A4版 2枚(本票含む)]

## 「原爆・被ばく関連資料データベース」作成決定

広島大学原爆放射線医科学研究所では、長年にかけて原爆・被ばくに関する学術資料を収集してきた。この資料をもとにデータベースを作成する計画をたて、平成15年度科学研究費補助金を申請していたが、交付が決定し、祈願のデータベース作成に向け第一歩を踏み出した。

データベースは2年計画で、本研究所と附属図書館との共同作業で作成する。今年度は次の資料のデータベース化を行う。

- (1) 原爆・被ばくに関する新聞・写真(中国新聞社分 1967年～1977年まで約13,000点)
- (2) 米国陸軍病理学研究所(AFIP)から返還された写真約1,200点
- (3) 原爆・被ばくに関する図書書誌データ(約6,200件)

本研究所が保有する新聞切抜き記事は、5新聞社分、合計46,000点余りに及び、残りは来年度行う計画。

データベースの公開は、平成16年5月頃を予定。なお、利用にあたっては、著作権および個人のプライバシー保護のため学術研究および教育目的に限定する。

「原爆・被ばく」に関するデータベースは世界的にも類例がない上、(1)の新聞切抜き記事については、今となってみれば被ばく者自身の手によって書かれた被ばくの手記・証言と同様、重要な学術資料になっており、(2)の米軍返還写真については極めて貴重な学術資料であるため、広範な分野の研究に寄与することが見込まれる。

これらの資料は、当時の被ばく者の苦悩、そして被ばく直後から長きにわたる悲劇の様相を如実に伝えている資料であるが、劣化が進み自由に閲覧することができなかった。こうした記録をデータベースでサービスすることにより、広汎な分野の研究者の方々により新しい考察が加わることも期待されると同時に、広島・長崎の惨劇の風化防止、さらに核兵器廃絶への道しるべとなるよう世界に発信していくという意義も併せもつと考えている。

(問合せ先: 川野 徳幸 広島大学原爆放射線医科学研究所助手 TEL(082)257-5878)